

平成30年第2回北海道地方競馬運営委員会 議事録

日時：平成31年3月26日(火) 15:00～17:00
場所：TKP 札幌ビッグホース-赤いガ 前 5階 ライック

1 開 会

(競馬事業室 佃参事)

2 あいさつ

(農政部 梶田農政部長)

- 年度末を控えお忙しい中、ご出席いただいたことに感謝申し上げます。昨年のホッカイドウ競馬でございますが、当初 80 日間の予定が9月の胆振東部地震によりまして 76 日間と少し短くなってございますが、その分も皆様にご支援いただき、競馬ファンの多大なる応援をいただきまして、売上ベースで行きますと 2%増という形で終わったところでございます。3年連続の売上増を含めまして私どもの様々な努力を重ねて参りましたが、まだまだ足りないこともたくさんあるかと思っておりますけれどもこうした競馬を続けられたことにつきまして改めて感謝申し上げます。
- 一方で 11 月1日に行いました2歳優駿におきましては、皆様にも既にご承知かと思っておりますが、あってはならない誤審がございまして、ファンの皆様、関係の皆様にも多大なるご迷惑をおかけしたところでございます。これにつきましては、関係の皆様と調整をさせていただきまして、私どもとして正すべき所は正し、勝馬投票券を含めまして戻す所は戻すという形で対応を行っておりますが、今回の事を契機にいたしましても改めて競馬事業を運営するに当たって、しっかり見直すべき所は見直し、やるべき所はやるといったところで確認をさせていただきたいと思っております。
- そういったことも踏まえまして31年度、いよいよ4月からホッカイドウ競馬が始まるわけでございますけれども、きちっと襟を正し、皆様に支えていただける魅力ある競馬づくりについて進めて参りたい。一方で、道営競馬である以上は経営的な面からも締めるところは締めてやらなければならないと思っております。今日の委員会では御意見をいただきながら、31年度の競馬運営の私どものやるべきところのご意見をいただきたい。

3 議 題

- 競馬事業室 安藤主幹より、ホッカイドウ競馬と競馬界を巡る状況及びJBC2歳カテゴリーの創設及び門別競馬場での実施決定について説明。

(浜近委員)

- JBC2歳優駿の格付けはJpnⅢとなるのか。また、当面の間とは具体的にどの程度か。

(田中室長)

- 格付けはJpnⅢ。表現としては、当面の間としているが、私どもとしては、ずっとおまかせいただけていると思っている。ただ、他の主催者がこの競走を実施したいとなれば、通常の3競走と同様に2歳優駿競走も検討する余地を残すために、このような表現になったのではないかと考える。

(浜近委員)

- もし他主催者に2歳優駿となった場合、現在の北海道2歳優駿はどうなるのか。

(田中室長)

- 北海道2歳優駿のダートグレード競走をこのJBC2歳優駿に鞍替えして実施するので、他主催者で2歳優駿が実施されるとなると、北海道2歳優駿を復活させるのかなど様々な問題が出てくると思われる。

(浜近委員)

- まだそこまで分からないということか。

(田中室長)

- 当分はこの形でやらせていただけると皆様からおっしゃっていただいたので、この形でずっとやらせていただけると良いと思っている。

(浜近委員)

- 当日の入場人員はどの程度想定しているか。

(田中室長)

- ピーク時でお盆の時期に3千人ほど来ていただいているので、その1.5倍くらいは来ていただくと想定している。
- そのため現状のAスタンドを来年度から増築して、多くのお客様を招き入れる準備をしている。

(佃参事)

- 併せて仮設のスタンドの新設も考えている。

(平本委員長)

- お盆の1.5倍の来場者を想定しているということは、門別競馬における最大のレースの位置付けということでよいか。

(田中室長)

- そのとおり

(西村委員)

- JBCは基本的にJBC協会に種牡馬を登録していることや生産者自ら抛出して競走を行っているものであるが、そのような認識で良いか。

(田中室長)

- そのとおり

○ 競馬事業室 安藤主幹より、資料1「ホッカイドウ競馬 平成30年度収支結果、平成31年度取組概要」に基づき説明。

(川上委員)

- 3歳以上馬輸送費補助を拡充しているが、この対策の成果を教えて欲しい。

(田中室長)

- 輸送費補助は今年で3年目。昨年は79頭が戻ってきていただいたので、私どもとしては効果があったと認識しているところ。今年は昨年までの条件に加え、他主催者デビュー馬であっても対象となるように条件を拡充して、3歳以上馬が北海道に集まるように対策を講じたところ。

- 昨日現在での入厩状況は昨年よりも 22 頭増えており、2 歳が 488 頭（461 頭）3 歳が 89 頭（88 頭）、古馬が 215 頭（194 頭）と増えている。番組編成上、2 歳馬のみでのレース編成はできないことから、3 歳や古馬の頭数がある程度揃っているとバラエティに富んだレース編成ができるため、ここが増えると番組編成上でも大きいと感じている。

（石川委員）

- 手ぶらでキャンプの実施状況について具体的に教えて欲しい。

（安藤主幹）

- 3 組募集したところ、応募が 34 組あり、とねっこ広場でグランピングとして実施。気球を上げる取組もあったが、天候条件により中止。夕食前には厩舎見学や夕食時には地元食材を使用したバーベキューや翌朝には調教見学、朝食には競馬場にある小径カフェからの提供などを実施した。

（田中室長）

- グランピングという豪華なキャンプを実施。今回は参加者からの負担を求めず実施し、大変好評であった。できれば、たくさんの人に参加していただきたいと考えており、今年は負担を求めてでも参加者を増やして実施するなど方法を考えたい。

（石川委員）

- 現在は、体験型観光が国内外ともに流れがあり、多少負担があっても参加したい人は多いと思う。

（松平事務局長）

- 参加した者として補足させていただく。夕食時にはほとんどの騎手や調教師が参加して交流した。
- 試験的な部分もあったので、次回は参加者を増やすことや、著名な方を招致するなどして検討して実施していきたい。

（西村委員）

- 3 歳馬が 89 頭という話だが、競馬の最先是ダービーと考える。3 冠競走も考えるともう少し 3 歳馬確保を図っていただきたい。

（田中室長）

- 輸送費補助や整った育成・調教施設などの利点を活かして、3 歳以上馬の確保を図っていきたい。

（佐々木委員）

- 広報関係について。手ぶらでキャンプについて私自身全く情報として知り得なかったが情報発信方法はどのように行ったか。

（松平事務局長）

- 本取組は当初から検討していたものではなかったため、ホームページ上のみでの情報発信となってしまったが、1週間程度の告知で34組の応募があった。

(佐々木委員)

- 情報は長期間の告知も重要だが、ツイッターのような瞬間的に情報拡散できるものも重要とっており、短い言葉でたくさん発信する取組も必要かと考える。

(川上委員)

- 競馬が安泰なときほど、危機感を持つことが重要。来場者の声を聞くなどしてリピーターに繋がる検証などを行い、更なる充実を図ってほしい。

(田中室長)

- そのとおりと考える。

(浜近委員)

- POGの対象はホッカイドウ競馬の全頭か。

(安藤主幹)

- 全頭対象。現時点での企画段階では、ホッカイドウ5頭、大井5頭の1人10頭での実施を検討中。

(浜近委員)

- 入厩馬の情報発信はどのように実施するのか。

(安藤主幹)

- SPAT4と関連づけて実施することとして、当該システムを活用した情報発信していきたい。

(浜近委員)

- それは、SPAT4会員限定ということか。

(安藤主幹)

- そのとおり。特典としてSPAT4のポイント付与なども検討しているところ。

(西村委員)

- 大井のファンファーレ隊は大変人気であると認識。私自身、招聘されたことを知り得てなく、他のお客様も同様と考える。もう少し情報発信を行っていただきたい。

(安藤主幹)

- 人気があるため、今後についてはそのような対応を行いたい。

(平本委員長)

- 広報は集客するために重要。いろいろな手法があるなかで、研究していただき潜

在的なファンに届く方法をとっていただければと思う。

(2) 平成30年度北海道胆振東部地震等への対応状況について

- 競馬事業室 安藤主幹より、資料2「平成30年北海道胆振東部地震等への対応状況について」に基づき説明。

(浜近委員)

- ・ 誤審の件、人間が行っている以上、5人でも10人でも起きるものは起きる。その後の対応が重要。私自身も Aiba で観戦しており、明らかに内の馬が先着していたため、他のお客様も気づいているはず。すぐに誤審を発表できれば、馬券を捨てることもなかった。なぜ発表が遅れたのか教えてほしい。
また、着順変更がなされたが、変更までの間、専門誌などでは1着ウィンターフェル、2着イグナシオドーロと表記され、その情報で予想したお客様もいたはず。なぜもっと早く変更できなかつたのか疑問。

(田中室長)

- ・ 対応が遅かったという批判は各所からいただいているところ。誤審が判明したのは、レース確定後、10~15分後。当日は、最終レースが迫った中で判明したことや関係機関との協議があったため、速やかに誤審を発表することができなかつたのが実態。
- ・ 最終レース後はお客様がすぐに帰ってしまうこともあり、発表を早くできたかもしれないが、適当な発表タイミングの判断が難しく、翌日の発表となってしまった。
- ・ 競走成績の見直しについては、関係機関との協議でどのような扱いにするか検討していたところであるとともに、1着馬、2着馬の関係者への説明も行っており、納得された上で修正したい考えがあったため、時間を要した。

(梶田農政部長)

- ・ 付け加えさせていただくと、ホッカイドウ競馬は8割がネット発売であり、全国の競馬場で同時発売しているため、本場だけでの收拾は難しいと考えている。初めての事案であることや限られた人員の中でどのような收拾方法が適切か、関係機関との調整が必要であったため時間を要したのが事実。もっと早い発表をとの声を多くの競馬ファンからいただいているのは事実。私どもとしても翌日の記者会見を含め、できることから発表させていただいたところ。いずれにしても誤審は起きてはならないことであるため、再発防止対策を徹底し、ファンの信頼回復を務めたい。更なるご批判はあると思うが、再発防止対策の更なる充実対策として進めさせていただければと思う。

(浜近委員)

- ・ 再発防止対策と言っているが、起きてしまった際の取扱は定めないのでか。

(平本委員長)

- ・ 私自信も同意見。再発防止対策も重要であるが、万が一2度目の誤審が起きた場合

の迅速な対応ができるマニュアルの作成が必要ではと考える。

(佃参事)

- ・ 今回の誤審を踏まえてマニュアルは現在作成しているところ。

(西村委員)

- ・ マニュアルを作成しても、今回のような事案は起きてはいけないと考える。浜近委員も心配しているのは、過去の事例から競馬場での暴動などの発生。今回は起きなくて幸い。起きたらではなく、二度と起きてはならない事案として最善を尽くしてほしい。

(田中室長)

- ・ 発表をためらった一番の理由は、暴動などが過去発生した事例があったこと。過去事例は前半レースであったことやネット発売がない状況でも暴動等があったため躊躇した。ネット発売が大半を占める中、事実だけを公表するのが良いかどうかというのは、迷ったところ。

(佃参事)

- ・ 他の競馬場など約 90 箇所当該レースを発売しており、他主催者にも迷惑がかかるという面もあった。

(浜近委員)

- ・ 着順変更に関係馬主が納得しないことは事前に分かること。その間に全日本2歳優駿の馬柱にも変更前の着順が掲載されてしまっている。着順は一番先に変更しなければいけないものと考えているが、どのように考えているのか。

(田中室長)

- ・ 過去の事例では(競走成績を)変更していないことなどを踏まえ、私どもは変更すべきという判断で関係機関と調整していたところ。法令上は変更する根拠はないが、馬産地や繁殖牝馬などにさまざまな当該馬以外の成績に影響されるので、北海道として正しい順位に基づき変更するという考えのもと関係機関と協議していたところ。

(浜近委員)

- ・ 誤審を認めたというのであれば、変更しなければいけないのは確実だったのでは。

(田中室長)

- ・ 関係機関との協議の中でも変更する、しないの意見があった。私どもとしては変更すべきこととして整理したところ。

(浜近委員)

- ・ もっと早く変更すべきだったと考える。個人的には変更したことには納得。

(西村委員)

- ・（過去の事例では、）中央競馬は変更しなかった。今回の該当馬は当管内生産馬であった。北海道が変更するという判断は生産者としても納得していた様子。

（3）これまでの運営委員会で提案された意見と施策反映状況について

- 競馬事業室 安藤主幹より、資料3「これまでの運営委員会で提案された意見と施策反映状況について」に基づき説明。

（かとう委員）

- ・ 日高観光大使、観光の専門家として意見させていただく。浦河町 AERU を拠点とした4泊5日5万7千円、6泊7日7万3千円で実施している馬と暮らすツアーというものがあり、ほとんどが本州のお客様でリピーターも多いツアーがある。門別で実施したグランピングも昨年はトライアル実施ということでよいが、話を聞くと家族1組で1泊2万5千円～3万円いただける内容かと思う。騎手との交流、早朝見学など子どもの自由研究や将来の就職にも繋がると考える。昨年実施したものの写真などを活用し、JTB や日本旅行などに商品として売り出していけるのでは。と思うので検討してはどうか。
- ・ 自身も社員教育者や商社 OL、教育関係者と共に競馬場を訪問。全員が初めての来場であったが、最初から最後まで楽しんだ様子であった。門別競馬場は大井競馬場などでは味わえない競馬場であるため、日高で社員教育を行えるという発言もあった。そういったこともあり、これまで全く競馬とは無関係の方々に対するアピールを行ってほしい。

（佐々木委員）

- ・ かとう委員に関連して。2020年に白老にアイヌ民族共生象徴空間が完成する。そういった自治体と連携して広域的な観光の視点で提案していくことも必要ではないか。

（黒田委員）

- ・ かとう委員の話で、JTB などとあったが、私自身は楽天トラベルが良いかと思う。楽天競馬の担当者は発売増に繋がる取組はなんでも実施するという意気込みであった。彼らが考えていたのは、馬券購入と日高管内への宿泊のセットでポイント山分けキャンペーンやウマジョ招待ツアーなど。このような企業を使うとその後のお客様の分析も可能ではないか。

（西村委員）

- ・ 観光との連携した取組については皆様のおっしゃるとおり。競馬とは無関係の方への取り込みが重要と考える。企業と連携して自然と馬の関わりを展開していけるのではないかと思う。また、ホースセラピーなど競馬の違う側面での展開もできるのではないか。

（川上委員）

- ・ 平取町軽種馬振興会では毎年小学生を対象とした馬の絵を描かせている。そういった取組も故郷愛などに繋がるため、なにかできないかと思う。

(平本委員長)

- 競馬はギャンブルとしての捉え方もあるが、馬産地、教育の現場としての捉え方もあるかと思う。馬券を発売して収益事業として利益を上げるのは大前提だが、北海道が実施する事業として、副次効果の部分もきちんと見えていけば道民に対して説得力が増すと思う。
- 競馬事業と馬産地ビジネスの部分を両立させる立ち位置でホッカイドウ競馬が存在することが望ましいと考える。
- 資料3は重要なものであると考える。今後も運営委員会の機能させるためにも継続して作成していただきたい。

(4) 第2期北海道競馬推進プランの中間点検について

- 競馬事業室 安藤主幹より、資料4「第2期ホッカイドウ競馬推進プラン」の中間点検について」に基づき説明。

(黒田委員)

- 若者や女性に向けた取組は重要。ギャンブル依存症で大切なのは幼い頃からの教育。ホースセラピーなどと絡めて競馬に対する教育を行うシステムがあれば依存症にはならないという話がある。教育面でも関わっていくことで、裾野も広がるし競馬に対する意識も変わるのではないか。

(浜近委員)

- 馬産地競馬という強みがあるので、もっと強調し、生産者に対するメリットを出せないのかと思う。地方競馬では実施していない生産者賞の創設など生産者馬主が半数を占める北海道競馬だからできる取組はあるかと思う。

(平本委員長)

- 具体的な提案はできないが、ホッカイドウ競馬の特徴を活かした取組は何かできるかと思う。

(西村委員)

- ホッカイドウ競馬の中で、田中調教師、角川調教師が抜きん出ている状況。坂路整備した際は技術の底上げという面もあったかと思う。優勝劣敗がある世界だが、ホッカイドウ競馬のレベルを上げていくためには他の調教師もがんばらないと現在のままの競馬興行ではどうなのかと疑問に思う。みんながもっと強くなるような対策を検討してほしい。
- 現在の生産者のファンに対する姿勢には疑問。Aiba 静内では Aiba 祭を（定期的に）実施しているが、回数を減らすことには組合長として反対した。過去のホッカイドウ競馬の存廃議論の際はあれだけ生産者として要望を出した意欲があったのに現在はその姿勢がない。
- インバウンド客の行動などに対し、様々な生産者側の意見はあるが、生産者側は受け入れないといけない。北海道としても生産者振興会などと役割について意見交換を意識的に行うべき。

(石川委員)

- 過去に競馬場での撮影の仕事をしたことがあるが、注意事項が多く怖い世界である印象であった。気楽に馬と触れあえる場所があれば良いと思う。
- 冬期間は競馬開催がないので、写真愛好家に向けた取組などができないかと思う。

(かとう委員)

- AERU では引退馬と触れ合える機会があり人気がある。ホッカイドウ競馬でも防疫上の問題などもあるが、そうした取組や場所ができないかと思う。

(西村委員)

- 中央競馬会でも近年は功労馬に対する支援を手厚くしてきている。1年の中で馬が神経質にならない時期を選んで取り組むなどやり方はあるかと思う。

(黒田委員)

- インバウンドについては富裕層にターゲットを絞った取組方法もあるのではないかな。

(平本委員長)

- リソースは潜在的にあるが、どのように付加価値を付けて提供するのは知恵の出どころ。ターゲットに訴求するような商品作りと売り方を行うことが必要か。

(かとう委員)

- 「新たな顧客を意識した取組の推進」の中で「若者や女性など・・・」とあるが、「馬券を購入できる」という表現や競馬とは無関係の女性に向けたなど、もう少しターゲットを絞っても良いのではないかと思う。

(かとう委員)

- インバウンドに対する対策はインフルエンサーの方に依頼するなどしても良いのではないかな。
- とねっこ広場のグッズショップが少し入りにくい外観であること、商品があまり魅力的ではない印象であるため、可能であれば見直しの検討をしていただきたい。

5 閉 会

(競馬事業室 佃参事)

- 貴重なご意見、ご提言ありがとうございました。これで北海道地方競馬運営委員会を終了する。

(以上)